

グラフで見る関西経済(2023年8月)

2023年8月28日

調査部 主任研究員 塚田 裕昭

今月の景気判断～足踏み状態となっている

【今月のポイント】

- 関西経済は、足踏み状態となっている。
- 6月の生産は3ヵ月ぶりに前月比プラスとなったが、足踏み状態。汎用・生産用・業務用機械は増加したが、化学、電気機械が減少した。
- 7月の実質輸出は前月比+2.8%と2ヵ月連続で上昇したが、均して見ると足踏み状態。
- 個人消費は、物価上昇などが懸念されるが、ウィズコロナの定着により持ち直しの動きがみられる。

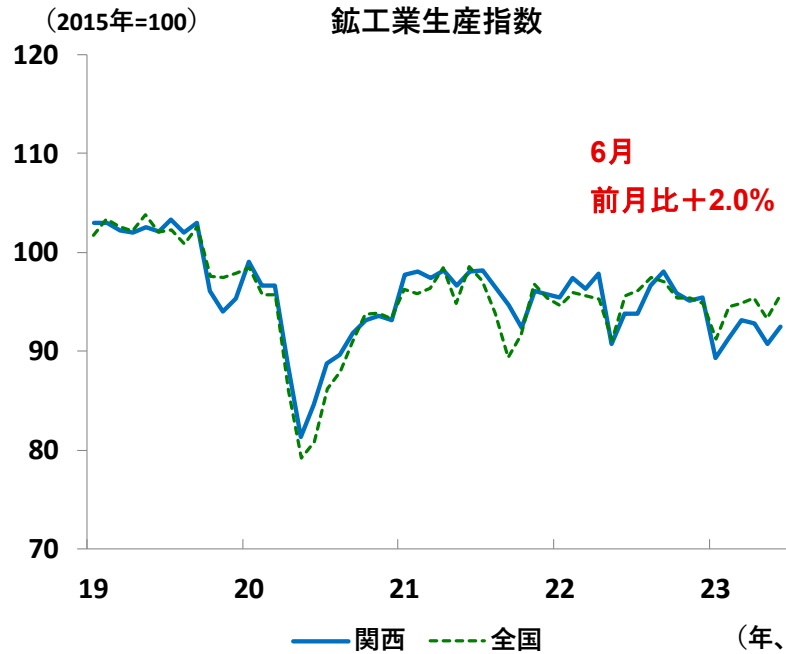
項目	現状
景気全般	足踏み状態となっている
生産	足踏み状態となっている
輸出	足踏み状態となっている(↑)
設備投資	持ち直している
雇用	持ち直しの動きがみられる
賃金	持ち直しの動きがみられる
個人消費	持ち直しの動きがみられる
住宅投資	横ばい圏で推移
公共投資	高めの水準となっている

注：()内は前月からの変化の方向

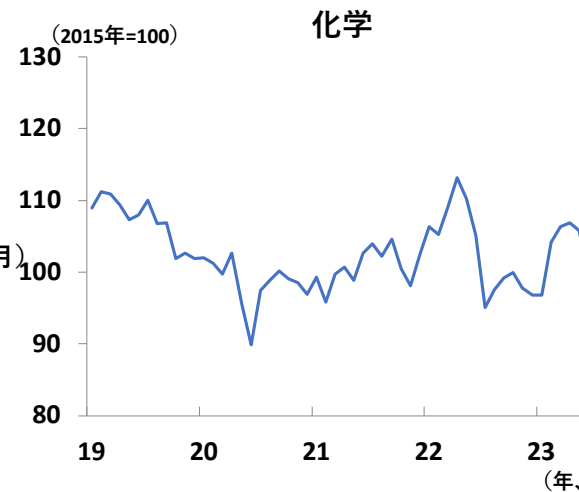
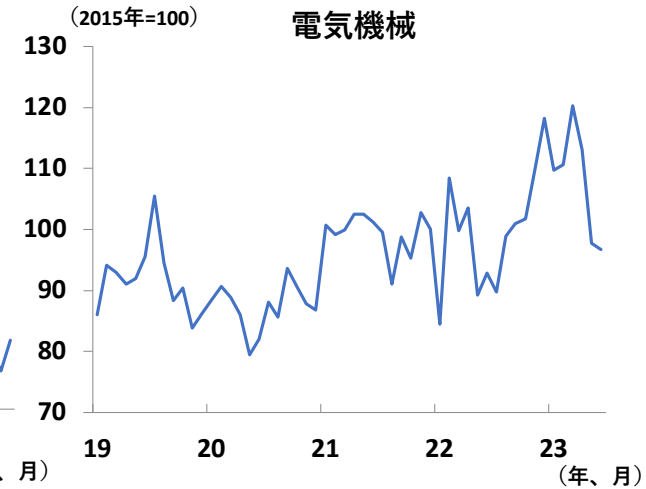
輸出は、「弱含んでる」から上方修正(↑)

生産

6月の鉱工業生産(関西)は前月比+2.0%と3カ月ぶりにプラスとなったが、足踏み状態。業種別では、化学、電気機械が減少したが、汎用・生産用・業務用機械(半導体製造装置、蒸気タービン、自動立体倉庫装置等)が増加した。

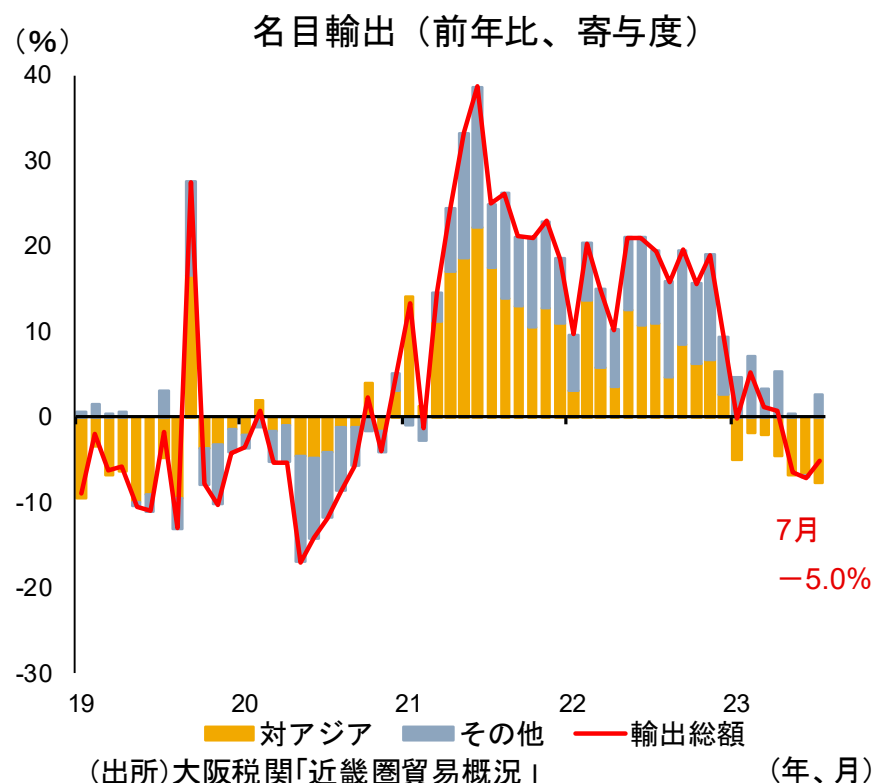
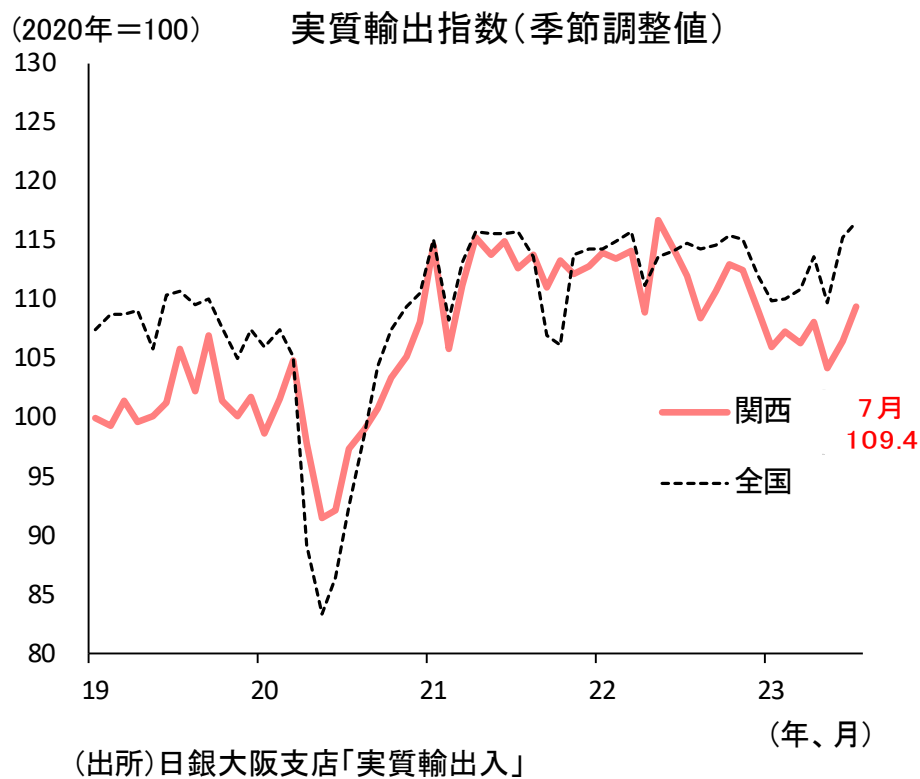


(出所) 経済産業省「鉱工業生産動向」



輸出

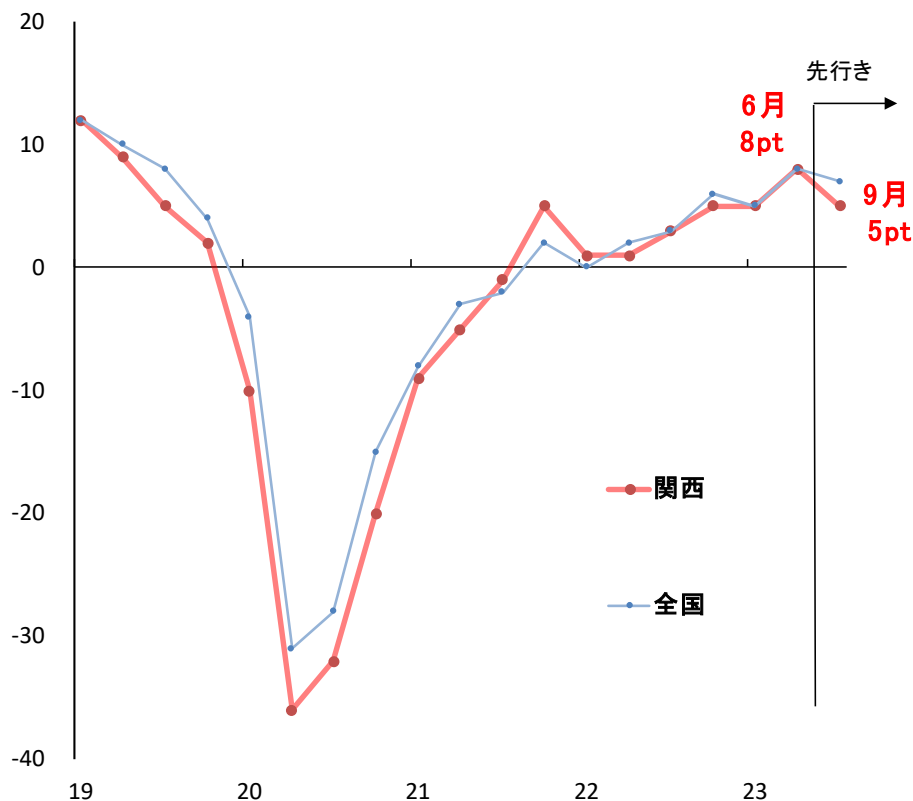
7月の実質輸出(季節調整値)は、前月比+2.8%の109.4と2ヵ月連続で上昇したが、均してみると足踏み状態となっている。名目輸出額(7月)は3ヵ月連続で前年を下回った。地域別では、米国向けが2ヵ月ぶりにプラスとなったが、アジア、EU、その他地域が減少した。品目別では半導体等電子部品、鉱物性燃料などが減少した。



企業景況感(日銀短観) ※以下は7/3公表の6月調査。9月調査は10/2公表予定

日銀短観6月調査の業況判断DIは、全産業で+8ptと6月調査から上昇。製造業は-1と「悪い」超ながら、前回調査からは改善、非製造業は、+16ptと「良い」の超過幅が一段と改善した。コロナ5類移行もあって、宿泊・飲食サービスが大きく改善した。先行き(9月)については、製造業は改善、非製造業は悪化が見込まれている。

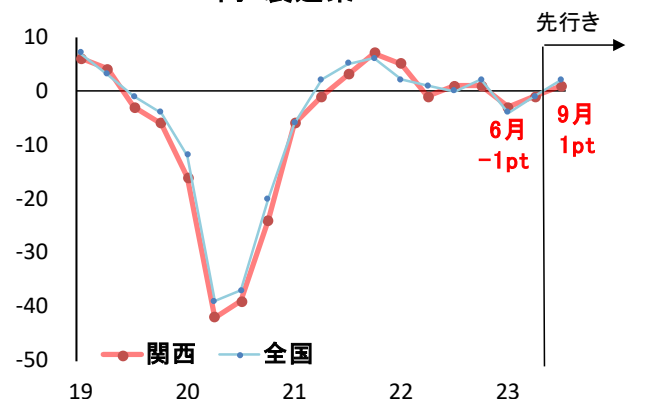
短観 業況判断DI「全産業」



(出所)日銀「短観」

(年、四半期)

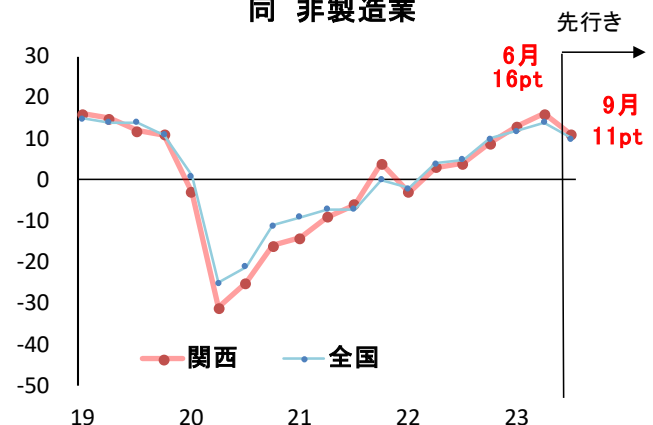
同 製造業



(出所)日銀「短観」

(年、四半期)

同 非製造業

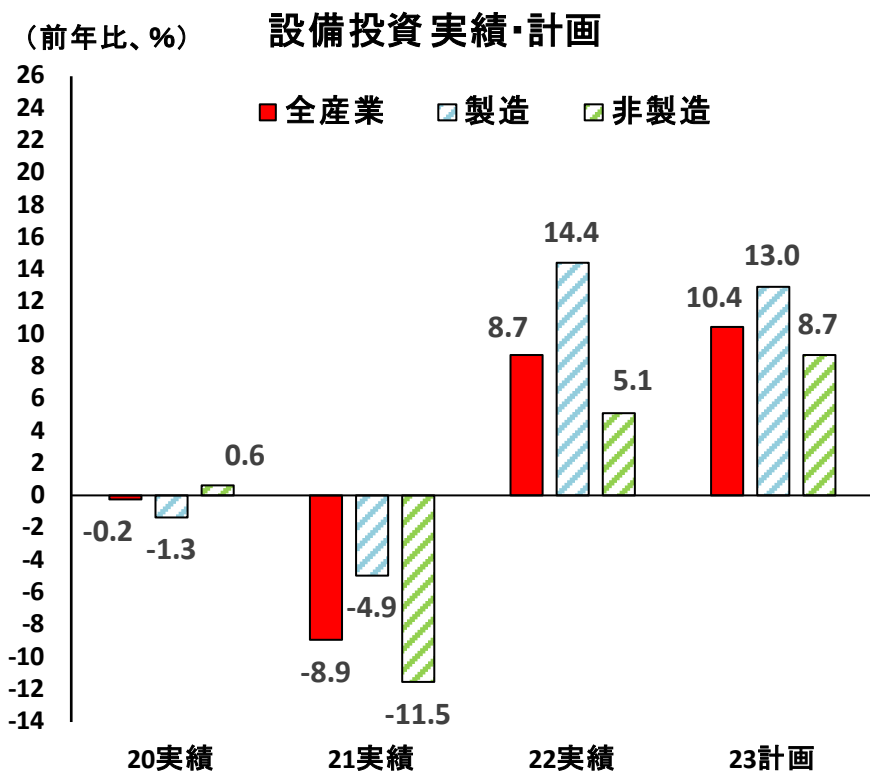


(出所)日銀「短観」

(年、四半期)

設備投資※以下は7/3公表の6月調査。9月調査は10/2公表予定

日銀短観6月調査によると、23年度の設備投資は前年比+10.4%と、3月調査から上方修正となった。金属製品、輸送用機械、宿泊・飲食サービスなど多くの業種で前年比2桁の大幅増が見込まれている。規模別では、中小企業が減少を見込む一方、大企業、中堅企業で増加が見込まれている。



(出所)日銀大阪支店「短観」

(注)設備投資は、含む土地投資額

(年度)

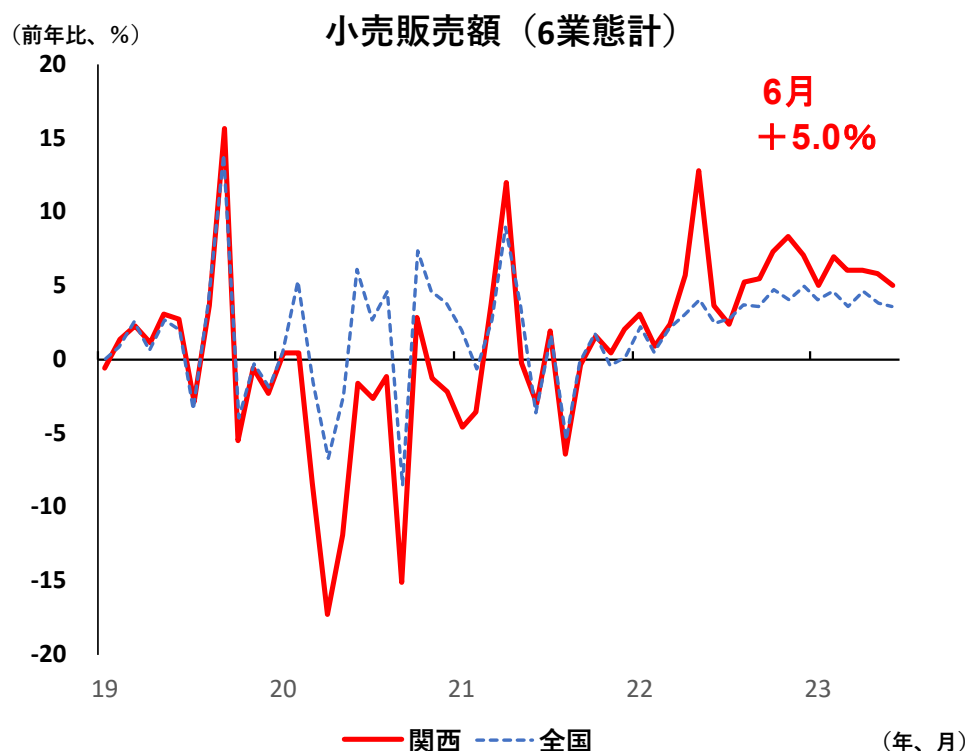
設備投資額(前年比%)

	22年度 実績	23年度計画	
		今回調査 (前回調査との差異)	前回調査
全産業	8.7	10.4 (10.0)	0.4
製造業	14.4	13.0 (12.5)	0.5
非製造業	5.1	8.7 (8.3)	0.4

個人消費(小売売上、自動車販売)

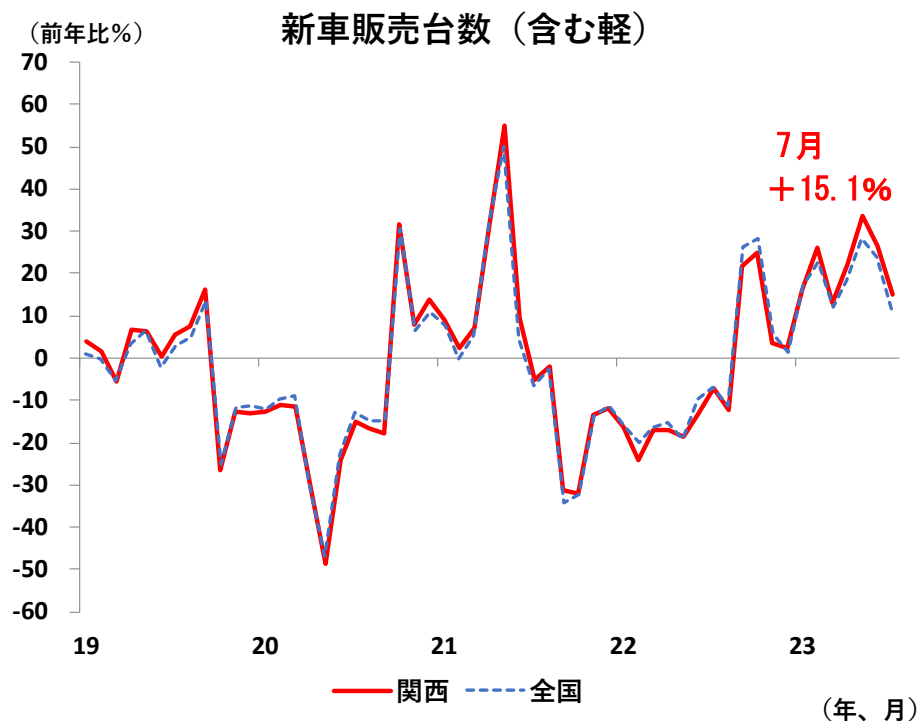
6月の小売販売額は前年比+5.0%と21ヵ月連続でプラスとなった。先行きは、物価上昇の影響が懸念されるが、ウィズコロナの定着により持ち直しの動きが続くとみられる。

7月の新車販売は、前年比+15.1%と11ヵ月連続でプラスとなった。水準はコロナ前を下回るものの、持ち直しの動きがみられる。



(出所) 経済産業省「商業動態統計」

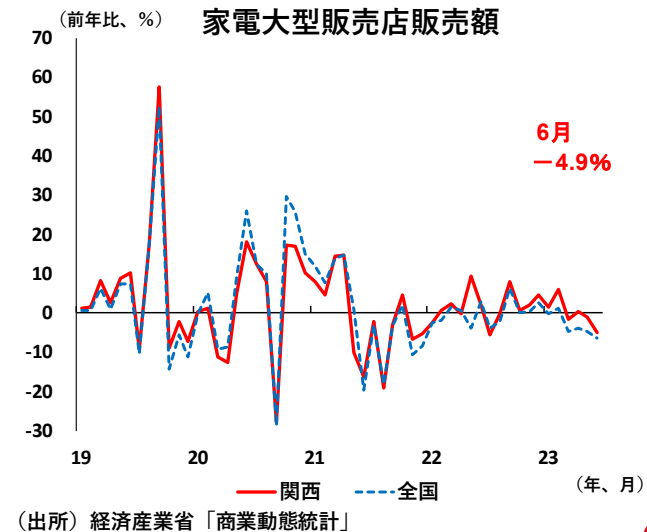
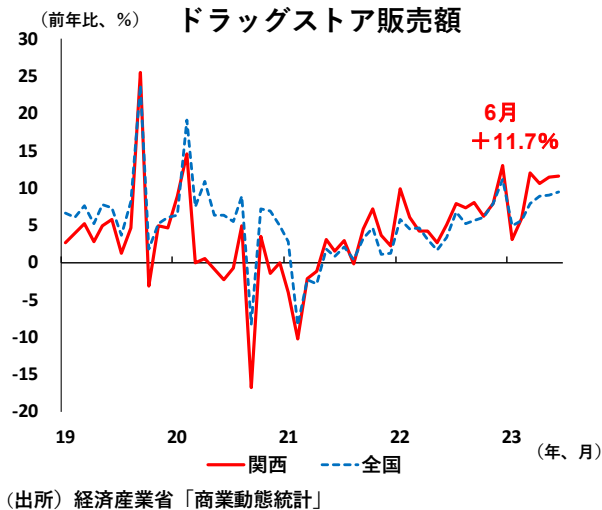
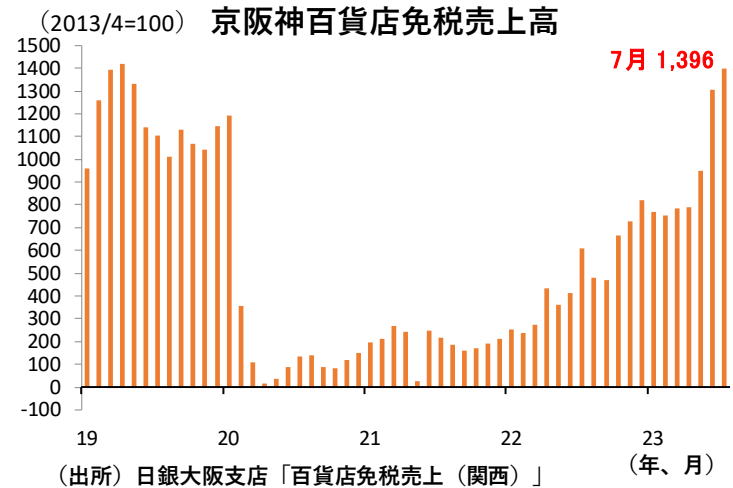
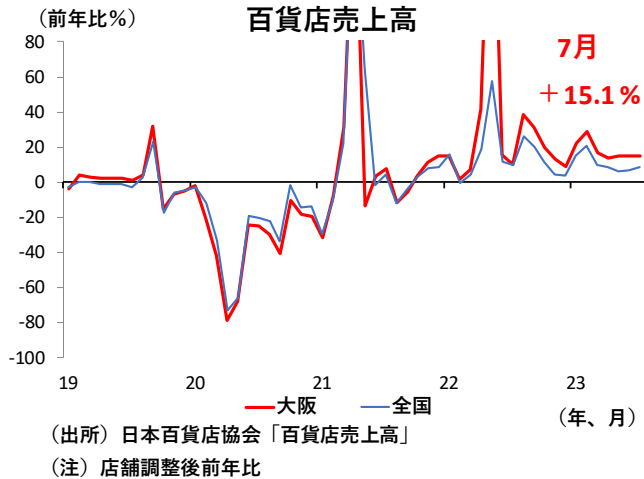
(注) 百貨店、スーパー、コンビニ、ドラッグストア、家電量販店、ホームセンターの合計



(出所) 日本自動車販売協会連合会「新車販売台数状況」
全国軽自動車協会連合会「軽四輪車新車販売」

個人消費(業態別)

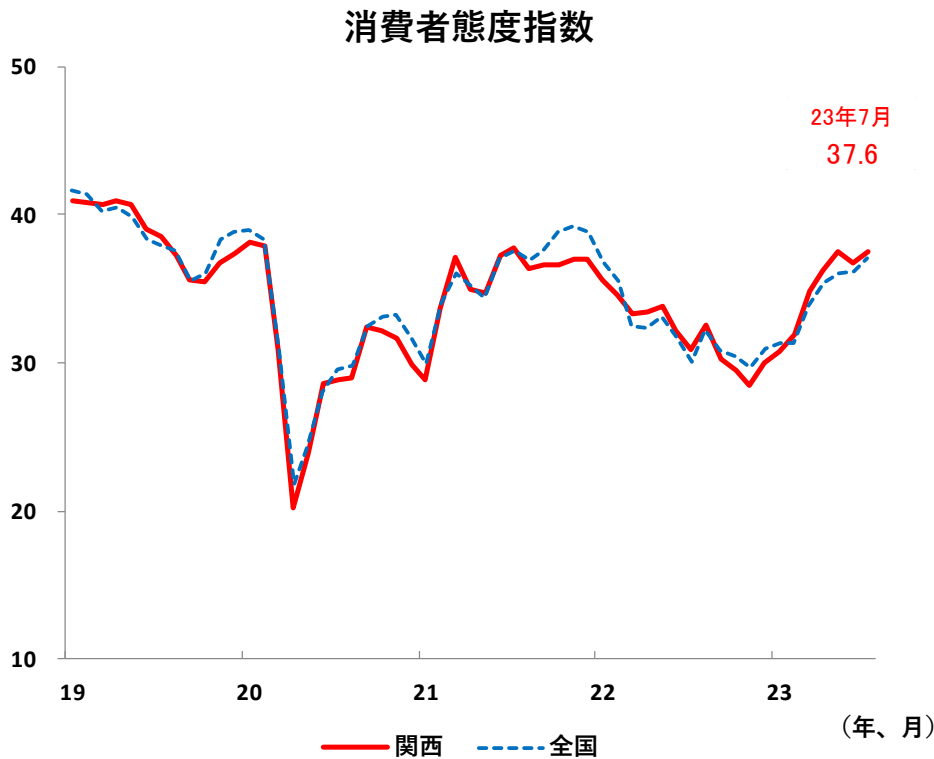
7月の百貨店売上(大阪)は、外出機会やインバウンドの増加により前年比+15.1%と22カ月連続でプラスとなった。京阪神百貨店免税売上指数は、入国制限の緩和以降水準を上げ、7月は1,396とコロナ前の19年同月(1,103)を上回っている。



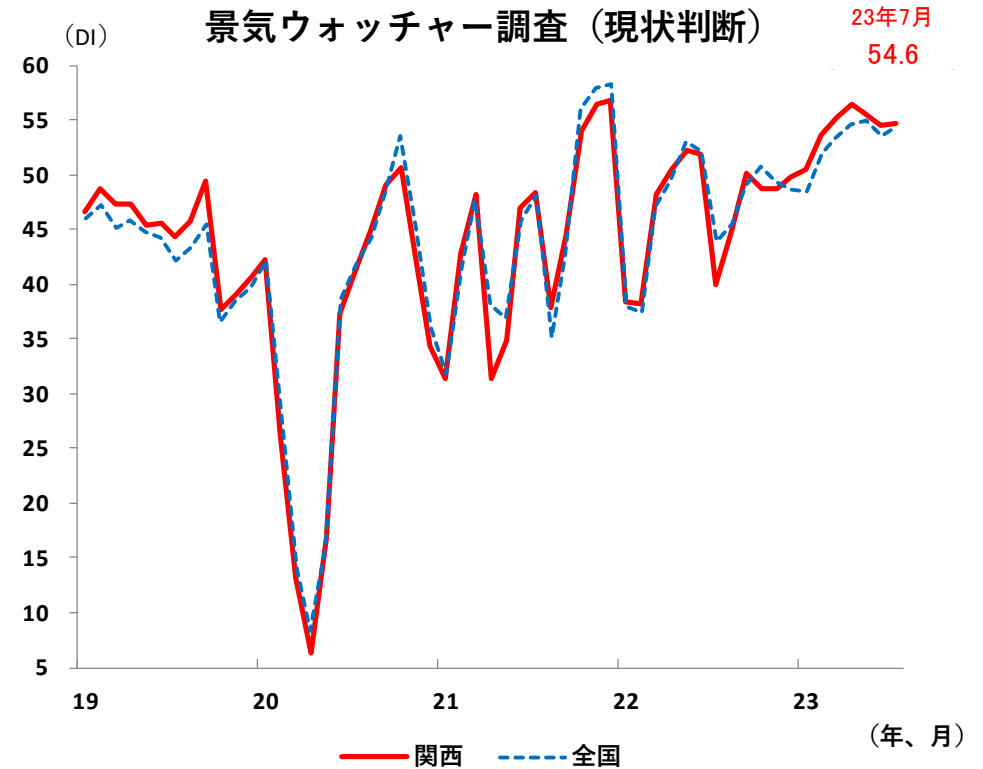
マインド・景況感

7月の消費者態度指数(季節調整値)は37.6と2ヵ月ぶりに上昇した。

7月の景気ウォッチャー調査(現状判断DI)は、54.6と3ヵ月ぶりに上昇、横ばいを示す50を7ヵ月連続で上回った。インバウンドの増加が景況感にプラスとなる一方、物価上昇がマイナスに働いた。



(注)関西の季節調整値はMURC試算
(出所)内閣府「消費動向調査」

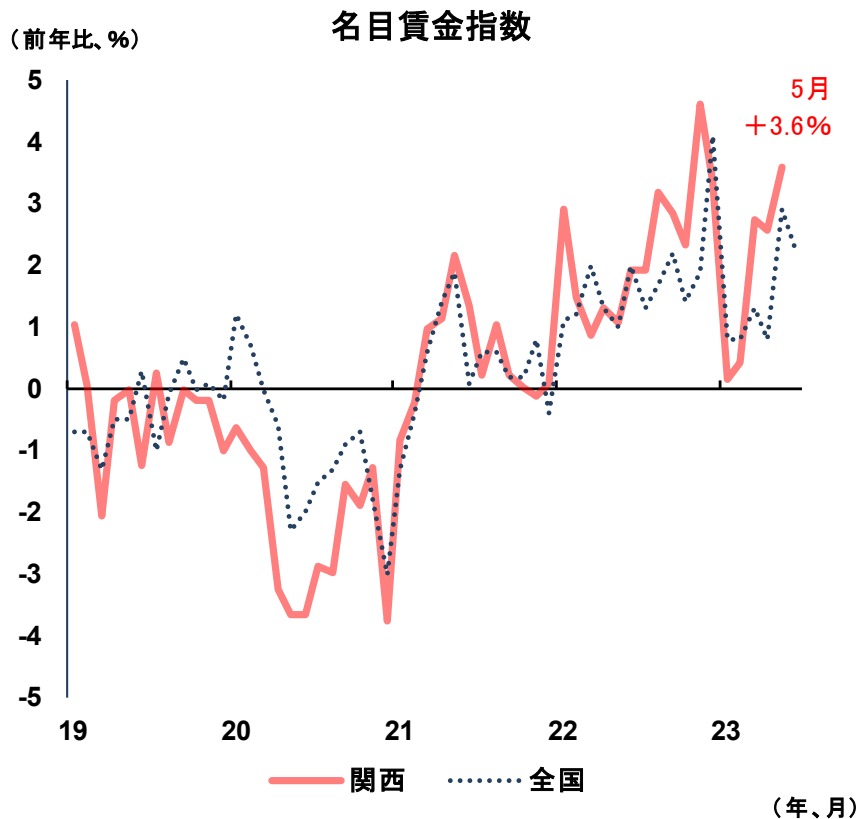


(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

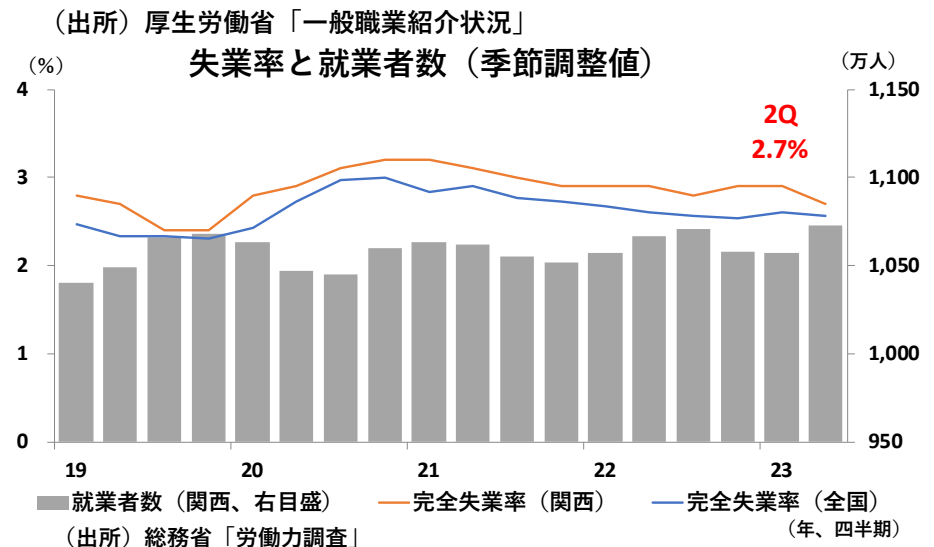
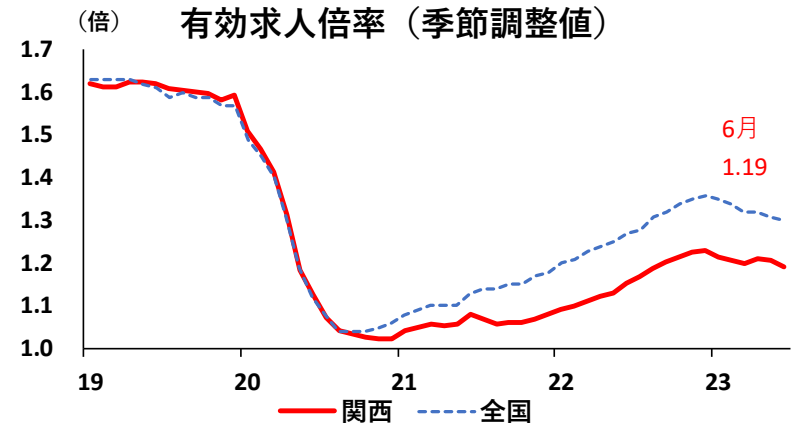
賃金・雇用

5月の名目賃金指数は18ヵ月連続で前年を上回った(前年比+3.6%)。

6月の有効求人倍率は1.19倍と前月から低下。求人倍率は全国と比べ低めで推移している。23年4-6月期の失業率は2.7%と前期から低下、就業者数は増加した。

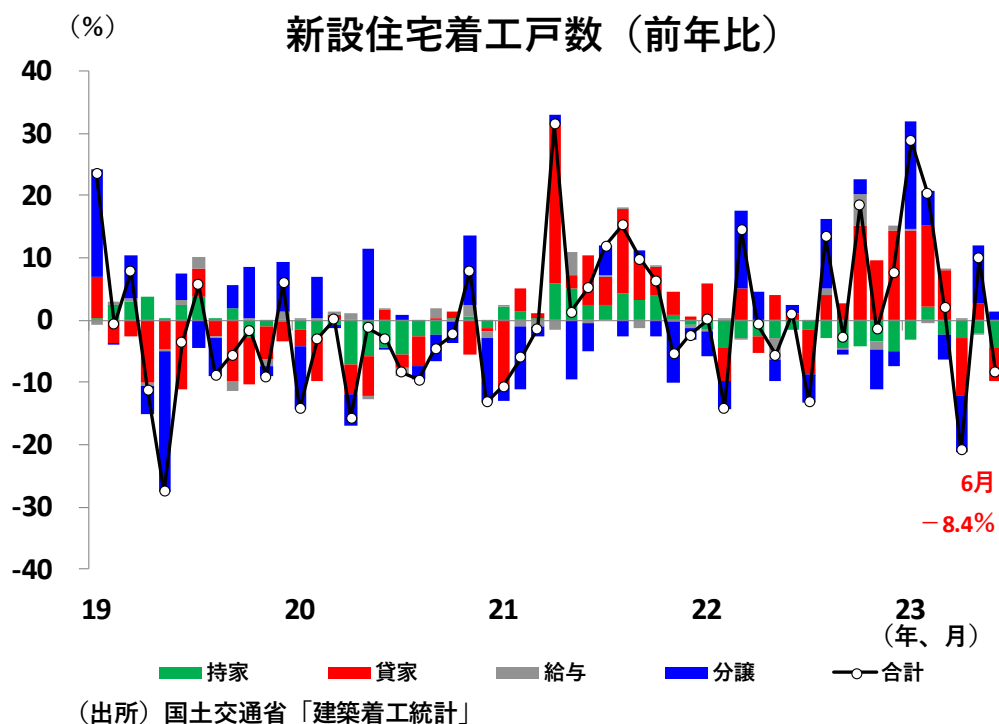
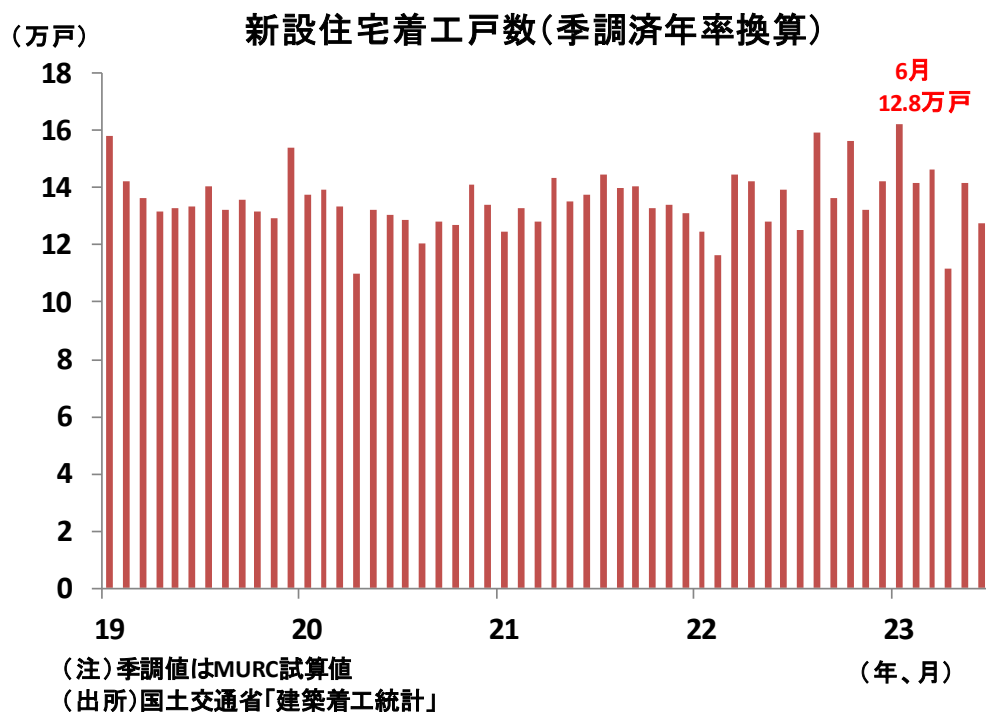


(注) 関西2府4県の名目賃金指数を常用労働者数で按分し合成したもの、MURC試算
(出所) 厚生労働省、各県「毎月勤労統計」



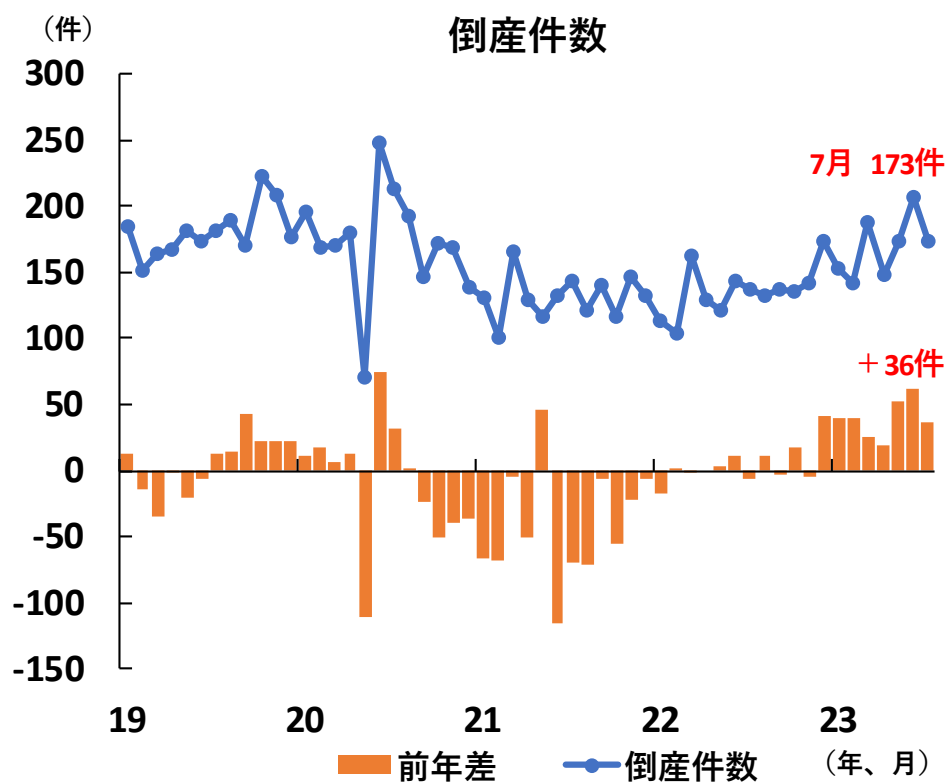
住宅投資

6月の住宅着工は季調・年率12.8万戸と2ヵ月ぶりに前月比で減少。均してみると横ばい圏で推移している。前年比では、持家、貸家が減少し、全体で-8.4%の減少となった。



倒産

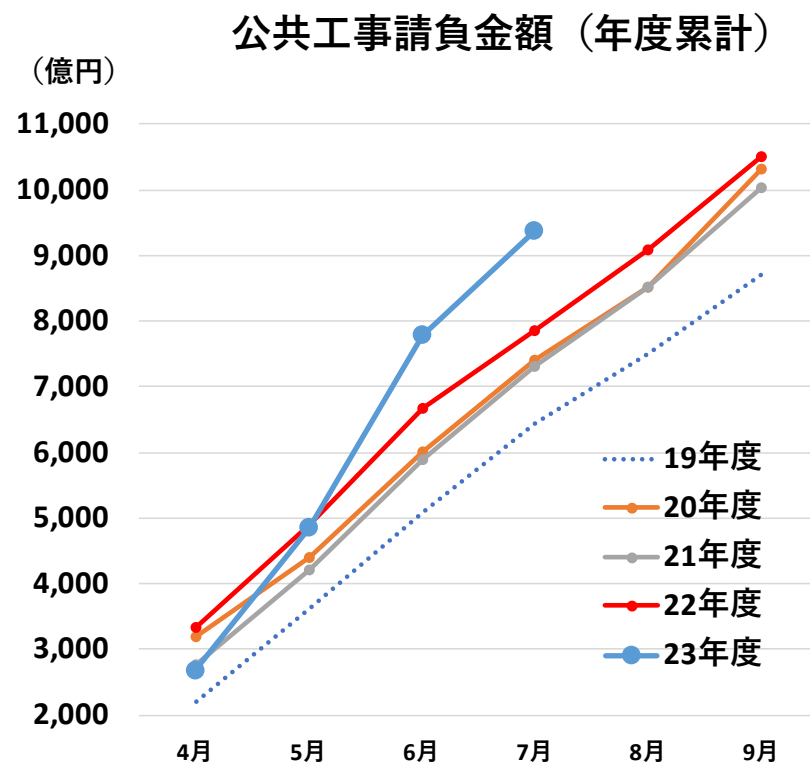
7月の倒産件数は173件と前年から36件増加。このところ前年からの増加が続いている。



(出所) 東京商工リサーチ「全国企業倒産状況」

公共投資

7月の公共工事請負金額(年度累計)は、前年比+19.2%の9,384億円。近年では高めの水準となっている。



(出所) 東日本建設業保証「公共工事前払金保証統計」

ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 塚田 TEL:03-6733-1626 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

－ ご利用に際して －

- 本資料は、執筆時点で信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡ください